

宮城県でCLT等の木造建築を 普及させるためにやるべきこと

～事業者の視点から～

2018年1月29日
三菱地所株式会社 柳瀬 拓也

地産地消か地産都消か

C L T（木造建築）の普及とは？

- ・ 新たな需要を創出
- ・ 既存製品（R C造・S造）からの代替需要を創出

宮城県の建築需要は・・・

16,532棟／年（平成28年全国12位）

国土交通省：建築物着工統計

代替品とは

既にポジションを確立した代替品といえば・・・

- ・ ラーメン屋→カップラーメン
- ・ 書店→オンライン書店
- ・ 固定電話→携帯電話

これらポジションを確立した代替品の特長は

⇒顧客の課題を解決している

既存製品の課題解決

既存製品（R C造・S造）の課題事業者視点

R C造⇒価格、工期

S造 ⇒価格、規模

木造が代替品としてのポジションを確立するには
どうすればいいのか？

CLTによる課題解決

価格

CLT製品価格の低減
だけでいいのか・・・？

規模

生産体制の整備
何をつくるのか・・・？

工期

低価格工法
どうつくるのか・・・？